

感嘆の声を上げながら顕微鏡を覗き続けた。雪の結晶は似たものはあっても、全く同じものはない。次はどんな結晶が現れるのか。興奮を抑えることができない。彼はすっかり雪の結晶の虜になってしまった。この感動こそ、彼の雪の研究の原点であり、死に至るまでの30年に及ぶ研究を支え続けたものであった。

世界初の人工雪

宇吉郎は、毎年冬に標高2千メートルを越える十勝岳に登った。その中腹にある山小屋に陣取り、雪の結晶写真を撮るためである。零下20度に達するこの一帯は、雪の結晶を観察するのに絶好の場所だった。雪はいつも静かに落ち、結晶が壊れないのである。

しかし、暖かい厳寒の中での仕事で、ついに体調を壊してしまった。零下10度を超える吹きさらしの中での仕事はできなくなつた。その頃(1935年)、北海道大学に設置されたのが常時低温研究室。部屋の温度を零下50度まで下げることが可能であった。この研究室で雪の研究を続けることが可能となったのである。

ここで彼が取り組んだ課題は、人工雪を実験室で作ることだった。毎年、十勝岳に登っている頃から考えていたことだ。宇吉郎はウサギの細い毛を零下30度の低音室の装置に、一晩中つり下げておいた。するとどうだろう。ウサギの毛の先に、見事な六角形の雪の結晶が輝いているではないか。世界初の人工雪が完成した瞬間であった。

人工雪が完成したその年、宇吉郎はとうとう体調を壊し、入院してしまつた。無理もない。零下30度の低温室での長時間の作業が続いた。体を冷やしてしまえばいいというつもりで、夏場だど中との温度差は50度を越えるのである。体が持つはずがない。宇吉郎は、温暖な静岡の伊東温泉での療養生活を余儀なくされた。

この2年に及ぶ療養生活の中で、中谷宇吉郎という人物を知る一つのエピソードがある。天才数学者岡潔との友情である。この時期、岡は心身の不調から脳病院への入退院を繰り返していた。途方に暮れた妻みちは宇吉郎に相談した。宇吉郎はイギリス留学の帰途、パリに立ち寄っていた時に岡と出会った。二人はたちまち意気投合して、無二の親友となつていたのである。

岡にとって最大の心の支えは、宇吉郎であった。そのことを知っていた妻みちは宇吉郎に夫のことを相談したのである。宇吉郎は驚くべきことに、自分たちがいる伊東温泉での療養を提案した。つまり、精神を病んでいる岡を引き受けようというのである。当時の中谷家は、それどころではなかったはずなのに。

宇吉郎自身、原因不明の病で療養中で、妻の静子は腎臓結核で腎臓摘出手術を受けた直後であった。その上、3人の子どもたちも病気がちで、岡の面倒を見る余裕などなかったのだ。それでも、彼は岡のためを思い、声をかけた。自分の苦痛より、親友の置かれた状況をより心配したのである。宇吉郎とは、そんなタイプの人間だった。

宇吉郎の岡への友情は、これにとどまらなかった。職を失った岡を北大の嘱託として招いたこともあったし、収入のない岡に奨学金の斡旋をしたのも宇吉郎だった。論文「雪の結晶の研究」で得た賞金の一部を、生活に窮していた岡に送金したこともあった。神秘的とさえ呼ぶようになるような、岡への友情の発露だった。岡の母八重は、宇吉郎の数々の配慮を伝え聞き、感激して泣き続けたという。天才岡潔は、あまり人の意見に耳を貸さずとなつたが、宇吉郎の言葉だけは例外だった。宇吉郎の溢れる友情と無私の親切心の前には、岡も素直になれたという。数学史上、数々の難問を解決した岡潔の業績の背後には、こうした宇吉郎の友情があったのである。

晩年の宇吉郎の研究は、氷に向けた。理由は雪の研究と同じだと語っている。氷の美しさ、とりわけ氷河の中にある空像の美に夢中になったのである。氷の空像というのはいかに六角形の中にできる六角形の平たい孔のことで、氷を光に透かして見ると、その空像が実に美しく輝いているのだという。

水の研究のため、宇吉郎は極北の地グリーンランド(デンマーク領)に何度も足を運んだ。その頃、彼は前立腺ガンを発症しており、それを押しての遠征であった。氷の美を突き詰めた。そんな気迫が彼を突き動かしていたのである。彼は常日頃、「科学と美は切り離せない」と語っていた。彼は科学者である前に自然の美の探求者であったのである。

1962年4月11日、宇吉郎は62年間の人生を終えた。自然を愛し、人を愛した生涯であった。自然を愛したがゆえに、自然は美をもつて彼に応えようとしたし、人を愛したゆえに、人は彼を心から信頼した。宇吉郎の愛と親切に触れたのは、岡潔ばかりではなかった。彼に接した人の多くは、「あんな親切な人は見たことがない」と語っている。自然に美を見ようとするその眼差しで、彼は人を見ようとしていたのである。

オンライン

外国人留学生のための企業研究フォーラム

～外国人社員が活躍中の企業と出会おう～

2025

13:00~17:00

2024年 5月29日(水)

参加申込み
Application



- ・留学生を積極的に採用している企業から、会社や仕事について、選考や応募方法等の話を聞くことができます。
- ・活躍中の外国籍社員の方から話しを聞く機会や、企業担当者に直接質問をしたり交流する時間もあります。

【参加対象】2025年新卒(2024年4月~2025年3月卒業予定)の外国人留学生(2026年以降卒の留学生の見学も可)。

<主催・お問合せ> **特定非営利活動法人国際留学生協会(IFSA)** E-mail:kokusai@ifsa.jp

<共催> **ASIA Link 株式会社ASIA Link**
<https://www.asialinkryunavi.com>